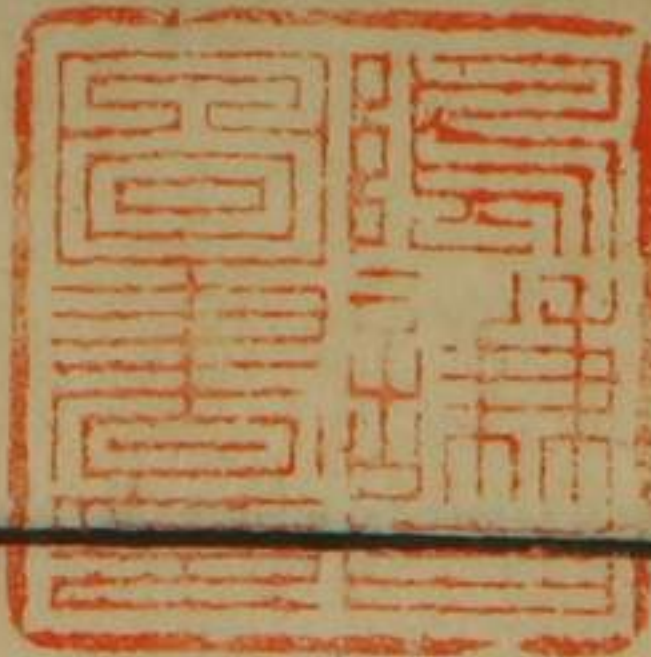


和泉名所圖會

ル 4
348
4



ル呂4
348
卷4



和泉名所圖會四之卷目錄

日根郡

名壽邊義梯

辺本王子

貝田王子

顯上人蟻穴

葛葉清水

樞居王子

雨山

辺本城跡

吉祥園寺

珍努池

佐所

禪興寺蹟

熊取莊

奥山

荻山長者旧蹟

勝軍寺

竜王宮

佐池松原

徳直之墓

野田大神

火走神社

日根松原

神倚神社

貝田神社

佐池川

藤通明神

淡輪重政墓

土丸城

犬鳴寺

名壽邊義梯

辺本王子

貝田王子

顯上人蟻穴

葛葉清水

樞居王子

雨山

辺本城跡

吉祥園寺

珍努池

佐所

禪興寺蹟

熊取莊

奥山

荻山長者旧蹟

勝軍寺

竜王宮

佐池松原

徳直之墓

野田大神

火走神社

東見

大井

洞

新所堂

西見

石

初堂

二層塔

兩界龍

興飛泉

官志津墓

二層塔

千信瀑布

神上

大井

日根

布

比賣

衣通

媛

布

比賣

衣通

媛

武塔大神

御所村

躰躰岡

赤賊堂

鳥取川

平舟寺

馬目王子

尾崎

貝掛松

淡輪

黒崎

國王神社

高上寺

馬戸王子

信達王子

金熊寺

男杜明神

菟砥宮旧跡

山中園

八王子社

尾崎御堂

箱作

小弓宿彌墓

深日行宮

彌勒寺

谷川湊 傾城

海會宮

愛宕社

佛殿

雄山

宇度墓

琵琶岸懸

波太宮

若性寺

圓性家地

上道大海墓

吹飯城墟

飯盛山

親吉崎

長慶寺

名產園田王能奥

疫神祠

地蔵堂

男水門舊趾

自然居士禿倉

地藏堂王子

八幡宮

存財大祠

名產和泉石

紀船守墓

深日浦

孝子畑

理智院 秀吉公像

興善寺

小嶋住吉祠

仰殿 石燈

不勅堂

龍王祠

鎮守

二宿親吉

中野縣志

日根の社
馬場前



[Faint, illegible vertical text on the right page]

日野廣



神明堰井大



日根郡 東南に紀州那賀各郡二部の界小至也

亭子院のみものと 宇多天皇又寛平法皇と崩は亭子院の おまわ結く

又のこけ杖抄くーおろー結くともろーふろー結ておこるひ

おひかり侍家のまうふろーあまのうーとひろる人内子

おろーまーろる空た殿上ふろーひあほろーおろー結く是こ

登うそ沸ともふかーらおろーせろり人もあろれ結くろりた

結ひろる沸供ふろれおんせろれまろーろろひろるあろりき

ーそまろーおろーあーあまろるりやて内ろりか將中おろれろ

ろろーとろーとろまろー勢結ひたれとたくひつーありたろり

このまろりろり結くひねとろーとろろふおろーまろよありいと

んかろろーのほろろろかろーまろまろかろひろいとあろーろろ

ろろまろてひ結とろーとろろろろろろろろろろろろろろろ

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

おれよーとろーとろー

近本王子 王子村ふあり又古本新王子ともい

神志神社 今妙見と社

落山長者四蹟 畠中村ふあり

近本城蹟千石堀 大正五年中本願寺の門徒平信長と對陣し

日根松原 今其地詳ろ

近義梯 近義莊の名存藤原明衡棟梁記に諸國の土產瓜敷と謂和泉

近本城蹟千石堀 大正五年中本願寺の門徒平信長と對陣し

近本城蹟千石堀 大正五年中本願寺の門徒平信長と對陣し

近本城蹟千石堀 大正五年中本願寺の門徒平信長と對陣し

吉祥園寺

王子村小あり後多羽院寺記云建仁元年十月七日
故休台祥者寺二王堂小入く清畫養あり

勝軍寺

地蔵堂村小あり今正福寺なり寺記曰隆和帝御宇
山城國愛宕郡小槻郡將軍地蔵堂安以宝塔聖堂

貝田神社

舊原村小あり延喜式神名帳加支多神社
今八幡社と称れ

貝田王子

王子記云貝田端王子所記云鶴原王子
日村小あり

珍努比

鶴原村佐母川村の向海道の東小あり
古事記曰垂仁帝の所子印色入日子余血比と傳

竜王宮

辺本崎の浦小あり石室の社へ例祭八月十一日
比辺海濱よりく凡乘の地あり

龍夜や海とむと川の龍の宮

班竹

佐野川

源二流一雨山より出る一野田の東より出る二水上出の東より
合し流野佐野川とて入渡村小至つて海小入

顯如齋穴

佐母川村新川又七弟第宅の境地竹林の中小あり
因三月五日信長と平頼寺和平頼の同日廿七日
紀州報賀(退去あり)とて入取より取より
北出の侯一着家あり紀泉の門後宮新川と市と共小新川の第宅へ
傳へ入々を討小織田の謀者窺ひあつた
其内に齋一並たり果しとて齋あり新川の穴は
更なるに齋一並たり果しとて齋あり新川の穴は

佐野

湊村佐野市場村の都會の地より賈の市居多く朝の市居の
市其後いひつる方よりありんたさるる取つたりと南海小海に
通ひあつた松交易し其利倍々
得る家多しこれに世に取持とて

佐野

信長亡滅の後貝田端王子二年所居恒の時時新川氏へも取駕
ありと祖師の親傳蓮女上人真承よりと科所建立の傳又章
等今小新川氏の家小
秘藏しつるを廟へ

廿二日さつとり入る小染うとと人よりと市人さつとんと見多
りあるさつとりの市人さつとつたけけりや家もあつたり

廿六日ゆりふ又さつとりの市人さつとつたけけりや家もあつたり

一々益のやまみらひつものふとそつとのへへもつとつとふあん

佐野松原

海濱小あり八世御抄等小
顯昭の巻葉集和泉國

かゝるは本末ふさむる聲さけをさそやまむとのねそ
日 ことしをよねのそくふ波うけく秋さくやこの月うけ

日 駒をむさこのおけふんわさそねそふんふれるちるち

日 冬の日ふあさつとる朝そそふ辰ふ辰ととさめくねそ

慶永法師
後多羽院
仲輔
定家



近本浦

明神 蟻通 社

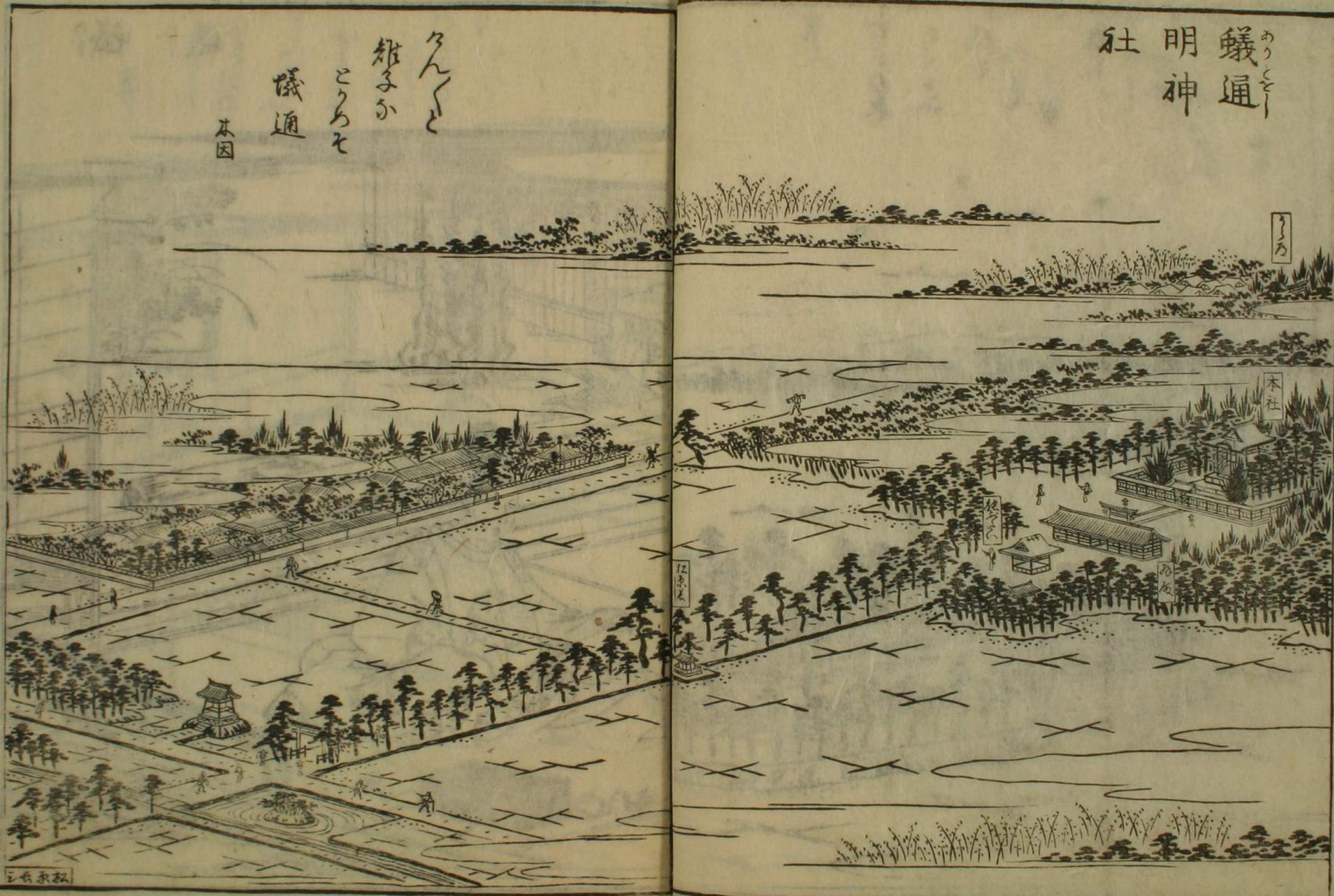
うら

本社

のり

のり

松林



かんく

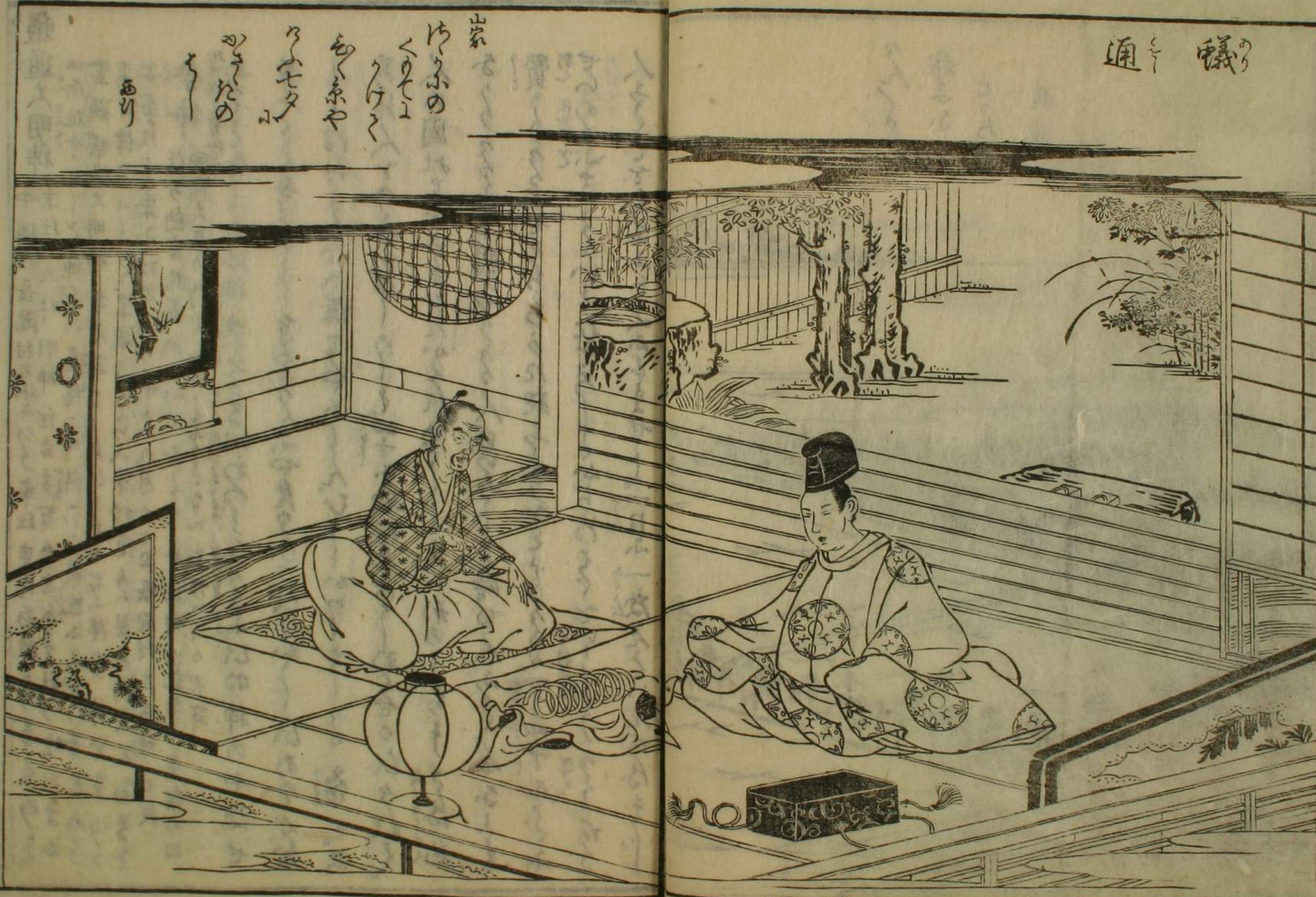
雄子か

どうろそ

蟻通

本因

通^り儀^の



山家

ゆふの

くろしよ

くけく

あく系や

あし七タ

あし七タ

あし七タ

あし七タ

蟻通大明神

中通莊長瀬村の小ふあり本社東向の殿本ノ居あり
末社ハ五社ノ明神住吉多賀愛宕本社の元にもあり
四面社中ノ一ノ神あり馬場二所詳あり其後不入船ノ居あり
登瀛蟻通大明神筆者詳なりけし香井の存不詳堂神宮寺あり
真言律宗あり一ノ宗福寺といふ本堂あり昆妙門天不初を
安重に東小社家あり例祭八月廿七日長瀬村生御神といふ
祭神 尾少納言松平紙とて本とて本社傳四祀一寺傍の曰
開化天皇の御宇初ノあると云ん云傳へたる不詳
あまををの明神貴之るれわつしひたるふけの神のやほせ
のしとく奇よとてなる人ふや先のひたるかうけあをどか
しはけくる心ハ珠もやあらんむりかりきく帝の只
あれた人のみかぼりり一四十小成めるさうねをせのひたれも
人の國此をさふつたかたれまど一。又に初のうち子 此はあ
かりたるふ中將ありたる人のひみとて時の人あり心あとも
賢りりたるが七をちちうた親らうとてさうたるが四十をさふ
せいありふす一といとねそろ一かぢはさぐさい中將のまへ 卷
人ありとてたあふん史ふとませ一日ふ一なだんといえりあふ

とて。みやうふさうく家内の上とやうさうちふ登をそとそれふ
こめをていひつてん。おほやけふも人もう勢うそれさうとささ
せくあり。あてて家ふ入わらん人とはささもかきう。うさ
あてたる世ふとせ。かやの上をアあてやあらん。中將あてまそのり
らん。おや心うさう夢の半さうとたればけ中將つたれとさ
あてつてり賢くさう。時の人おほを成たり。もろ一乃帝との國
みささかいそとさうけ。國うちさうんさう。おふ心えあさひるふ
さうとさうのひたるふ。ばわくとさうふらうけ。げふあづらる本乃
二尺いりあふ。これぐもと末のつとせとさひささるふ。まへ
あてたる世ふとせ。かやの上をアあてやあらん。中將あてまそのり
らん。おや心うさう夢の半さうとたればけ中將つたれとさ
あてつてり賢くさう。時の人おほを成たり。もろ一乃帝との國
みささかいそとさうけ。國うちさうんさう。おふ心えあさひるふ
さうとさうのひたるふ。ばわくとさうふらうけ。げふあづらる本乃
二尺いりあふ。これぐもと末のつとせとさひささるふ。まへ
あてたる世ふとせ。かやの上をアあてやあらん。中將あてまそのり
らん。おや心うさう夢の半さうとたればけ中將つたれとさ
あてつてり賢くさう。時の人おほを成たり。もろ一乃帝との國
みささかいそとさうけ。國うちさうんさう。おふ心えあさひるふ
さうとさうのひたるふ。ばわくとさうふらうけ。げふあづらる本乃
二尺いりあふ。これぐもと末のつとせとさひささるふ。まへ

あてたる世ふとせ。かやの上をアあてやあらん。中將あてまそのり
らん。おや心うさう夢の半さうとたればけ中將つたれとさ
あてつてり賢くさう。時の人おほを成たり。もろ一乃帝との國
みささかいそとさうけ。國うちさうんさう。おふ心えあさひるふ
さうとさうのひたるふ。ばわくとさうふらうけ。げふあづらる本乃
二尺いりあふ。これぐもと末のつとせとさひささるふ。まへ
あてたる世ふとせ。かやの上をアあてやあらん。中將あてまそのり
らん。おや心うさう夢の半さうとたればけ中將つたれとさ
あてつてり賢くさう。時の人おほを成たり。もろ一乃帝との國
みささかいそとさうけ。國うちさうんさう。おふ心えあさひるふ
さうとさうのひたるふ。ばわくとさうふらうけ。げふあづらる本乃
二尺いりあふ。これぐもと末のつとせとさひささるふ。まへ
あてたる世ふとせ。かやの上をアあてやあらん。中將あてまそのり
らん。おや心うさう夢の半さうとたればけ中將つたれとさ
あてつてり賢くさう。時の人おほを成たり。もろ一乃帝との國
みささかいそとさうけ。國うちさうんさう。おふ心えあさひるふ
さうとさうのひたるふ。ばわくとさうふらうけ。げふあづらる本乃
二尺いりあふ。これぐもと末のつとせとさひささるふ。まへ
あてたる世ふとせ。かやの上をアあてやあらん。中將あてまそのり
らん。おや心うさう夢の半さうとたればけ中將つたれとさ
あてつてり賢くさう。時の人おほを成たり。もろ一乃帝との國
みささかいそとさうけ。國うちさうんさう。おふ心えあさひるふ
さうとさうのひたるふ。ばわくとさうふらうけ。げふあづらる本乃
二尺いりあふ。これぐもと末のつとせとさひささるふ。まへ

あゝ心はゆらん。人々もあけられぬ。ばらばらとあつちのあ

あつちをばらばらつちつちつちつちつちつちつちつちつちつち

ねら乃ち二足やうあると。是いつれつねつねつねつねつねつねつね

且この中將ゆききききききききききききききききききききき

さしよせんり。おをさしらうさんせめとさしとひひたれを。やう

それを内裏乃ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

うごううごうふ。又さきききききききききききききききききき

まごうまごううごうまごの中をさうして。たふはあさあさあさあさあ

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

まごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまごうまご

袋裏紙小島弁張通明神の御事とありて
足音の社のまじ小島台のむらさきふがふが
舟とていへども松葉紙小島くつらうや

あゝわがふやうれあゝわがふやうれあゝわがふやうれあゝわがふやうれ

貫之家集

このゆひたる人乃くさう
きれくめくさうてあまりのかす
乃くさくふくふ満のあぬく
又のくさくさうゆく人くま
あゆりくさくこれいふす
うさくせいのさくむさく
あろやしもあくさくもさく
くさくあろあろさくさく
あろさくさくさくさくさく
みてくさくさくさくさく
さくさくさくさくさく
そもく何の神とのま
さくさくさくさくさく
よきてきてさくさくさく
さくさく

冠社 往還の社人小神崇の
帆下松 佐野の南あり海
葛茶清水 長瀬村の東南あり昔大鳴
名と長瀬村の東南あり昔大鳴
足より長瀬村の東南あり昔大鳴

禪興寺古蹟

長瀬村小あり新羅金藏の
豊浦大長とあり人あり社頼小豊浦寺
驚く領地とあり寺此傍
昌泰元年十月十七日の火災
六月寺の舊記小載
直之墓 淡輪重政墓
廿七日紀伊國清和但馬守長
泉州安松村小到侍時小同
出陣の軍蔵の事か向九右
又二ツの比あり口方みる
應せん欲せば則陣信達村
南軍の魁士上田主水龜田
水谷又去傍高系小正太

武名伝稱久大也主馬助の冠威既小佐也村小陣に懸將ハ、
 園有傷門直之、淡論六希を侍重政有り、志在馬門、陣ハ、
 堅橋益盡小切く也、故あま、討之、皆く、橋、所、有、た、
 助、在、馬、門、を、放、り、久、大、を、去、る、も、類、小、中、を、し、や、
 ぞ、う、と、志、を、時、ハ、本、利、法、馬、の、馳、来、つ、首、の、取、る、
 う、我、先、に、及、ぶ、今、ハ、新、も、志、ハ、四、角、八、方、に、切、く、
 討、死、す、首、の、取、永、田、法、を、清、ふ、れ、々、り、次、乃、將、士、
 國、都、金、九、等、志、も、令、と、擊、放、り、
 創、成、と、被、け、務、り、と、之、も、圍、都、金、九、等、志、も、令、と、
 北、軍、ハ、旗、を、引、退、く、但、馬、志、の、登、坂、小、野、慶、志、
 剛、の、勢、引、退、く、諸、士、ハ、願、い、て、奮、て、さ、る、べ、く、
 馬、志、進、む、と、之、も、南、軍、年、く、橋、に、放、つ、く、
 北、軍、ハ、旗、を、引、退、く、諸、士、ハ、願、い、て、奮、て、さ、る、べ、く、
 馬、志、進、む、と、之、も、南、軍、年、く、橋、に、放、つ、く、

二千人舞入相樓
 二人舞入相樓
 熊取莊 十二村あり、其中の五門村といふ小中左邊大久保村小中左太丈と
 あり、根来小佐次の子孫之根来の苗孫ハ今も遺存あり、
 日本後紀云、桓武天皇延暦北之五年十月遊獵、
 日本後紀云、

熊取莊 熊取莊 野田村小あり、家中記云、野田の、
 土丸城蹟 土丸村小あり、貞和年中、楠の、
 兩軍の、
 雨山 熊取莊小あり、園頂秀、
 奥山溪 久保熊取谷の奥より、
 火走神社 久保村小あり、延喜式内、

火走神社 久保村小あり、延喜式内、
 久保村の名産、

火走ひろうし
神社しんじや
一名いちめい
龍宮りゆうきゆう



大鳴山
七寶龍
寺





其大之...
其大之...
其大之...
其大之...
其大之...
其大之...
其大之...
其大之...
其大之...
其大之...



犬鳴山 路

大...
山...

大...
山...

大...
山...

大...
山...

むく穉まのめく大と牽
 山中へ入る鹿は窺ひ
 傍の穉小毒蛇有る穉作
 と呑んと穉まを喰ら
 穉小を喰これと喰ら
 大殺声と吼く其
 主小を穉作
 いまごされと
 さくら鹿大
 の吠ふ穉作
 去れ穉ま怒り
 其大と斬る大の頭
 忽踊り毒地獄
 穉殺を其時犬
 恩義を知り我
 命を助けし



これ小よめく
 出家して
 ち小一字の
 精舎成
 建たり
 故小
 犬鳴山と
 称す



大鳴山七宝龍寺

大鳴山七宝龍寺 大鳴山の東にあり 巖崖危峻なり 蒸樹密に

本堂 山上あり 中尊 不初明王 長き尺八寸 役行者の作 在 役行者

燈明嶽 高山の絶頂なり 西の海面と巖に接し 燈明嶽の

兩界龍 登山の初あり 塔の瀑布 兩界の上あり 奔賊天龍

固津喜龍 又山上あり 奥の瀧 又山上あり 千平龍

布曳龍 又山上あり 七の勝もいひ 七の瀧より 七宝龍寺と

おひきる七の寶に勝小きく六のにぐらなきむ(きと) 九條殿下

東観 西観 俱小高山のり場なり 發掛石 四寸巖 登山の

風穴 奥の勝の上あり 連理枝 本堂の 押上石 本堂の

洞の瀧 共小道の 犬の墓 道のたり 十向許小あり 石面小梵字

それけいへ 役優婆塞 茶創の地 自他の不初多本尊と

犬鳴と野る半むり 獵作あり 犬と牽けい入る一ツの麻

と窺ふ 傍小巨あり 地あり 頭と擧ぐ心の獵まを呑んと向

獵師が意麻小の門とこれととるに 犬殺聲と發し 頻に

犬の吠る小驚ひく去るぬ 獵ま大不怒く 犬と斬は太の

頻忽踊り地と齧殺を 於是其鳴半の妄るるるるの

其時人咸曰け太の不初の使獸 是偏小明王の靈驗なり 獵ま

感嘆しけい 寺不入 薙髪して 永く殺業を罷るる故 犬鳴

あり 屢棟閣に上下し 雲客に従ふ 官嬪志津といひ 女け

小聖公見く戀慕忽發つて寤寐に忘る半る一花を乃使成
百ふ小通に小聖これと遊んくけふ小遊に志保女役成進して
巖徑崎嶇に至り其時忽然くく白雲掩映一俄小聖去け
所と匿に志津女悲泣不勝く路傍に愁死に時の人を
哀んく葬埋をけ憤不雲を則くく雨降は是志津女
とく又傍小龍ありこれを泪の飛泉とあつく白雲小龍擁
とく親を不初きの擁護する所故不院辨く南朝正平
年中不志一上人とくあり紀州粉河の英寿月して顯密禪の
三宗に兼修に土丸の城主橋本判官正高公勸勵く租堂宇
と再堂一寺院に經始に實不けふの中興あり折高ふん
見ふ不荊州の衡ふく比くぬん劉敬叔が古時の文字成得あるら
香の跡と遺くく神馬の碑もあふんや火徳の中天日月と投け
一柱乾坤と鎮くくの靈區に頼に頼むは靈の御の
心里の結くくを教もくくま川く風ふくくを
和泉式阿

岩捨葉の向ふりくく龍涼一

斑井

衆を

秋の夜や大鳴ふの経の聲

大井堰大明神

日根野莊日根野村ふあり新嘉に月二日
日根野莊の惣社あり生土神とん

系神鷓鴣草葺不合尊

延喜式内あり聖去帝の
仲時勸法一あり

比賣神社

大井堰社を居のふあり延喜式内く三代實録曰貞觀
元年五月七日壬戌和泉國比賣神社に列に

大井堰川

本社の南ふあり兩岸山石疊々く真に神さひあり
水若柳懸くく

牛石

大井堰川の
中ふあり

燒橋

神宮古義眼院の若小
あり寄代の大樹あり

二層塔

本社の乾ふあり
塔の西

毘沙門天社

本社の内の
塔の東

同八月十二日丙申無位比賣神不從五位上公授くく
一説曰茅渟宮の舊蹟けやあり近く比賣神の夜通船くく
一名儀に村の若ふあり末社 住吉 祇園 賀茂
儀に大明神と名ふ 熱田 春日 稲荷
大井堰川 本社の南ふあり 兩岸山石疊々く真に神さひあり
水若柳懸くく 燒橋 神宮古義眼院の若小あり寄代の大樹あり
二層塔 本社の乾ふあり 塔の西
毘沙門天社 本社の内の 塔の東

東草集當社傳造の類文云ク大井堰大明神の泉州社其
一社也虚牲實澤の益日々小初之朝折暮賽の禮新ふ
神殿拜殿寶塔鐘樓經藏庭廊廊門瑞籬荒庭未社等
と欲行破壞の故小八月十五日五社會合の系禮ハ
一社也爾の初めは餘社の神宮これハ初官符類に
下付た依神輿ハ國府小登まりね正至十年八月日
續纂印御梨の禮に小川に本本文の

日根野城跡

日根野城跡 日根野中筋村小あり日根野氏数代の家宅ハ
遠血今終ふ夜せり日根野氏の姓傳今同郡湊村にあり
衣通形舊蹟 上郷中村小あり土人衣通形の子孫所といハ
七月光明公挑々遊來懐々養田といハ小社も亦根野氏
所の懸墓といハ歎息するに傍り今終ふ小池と遺ハ池の傍に
樹の本一株ハ裁り

日本紀曰

允恭天皇八年春二月衣通部那奏一と云妻つ子に
王宮小迫く晝夜相續く陛下の威儀を視んと云小孫り小
皇后ハ則妻が婿有り妻小ハ恒小陛下と恨め亦妻
これと苦しむ云ハ其王居ハ離れく遠く居りんと

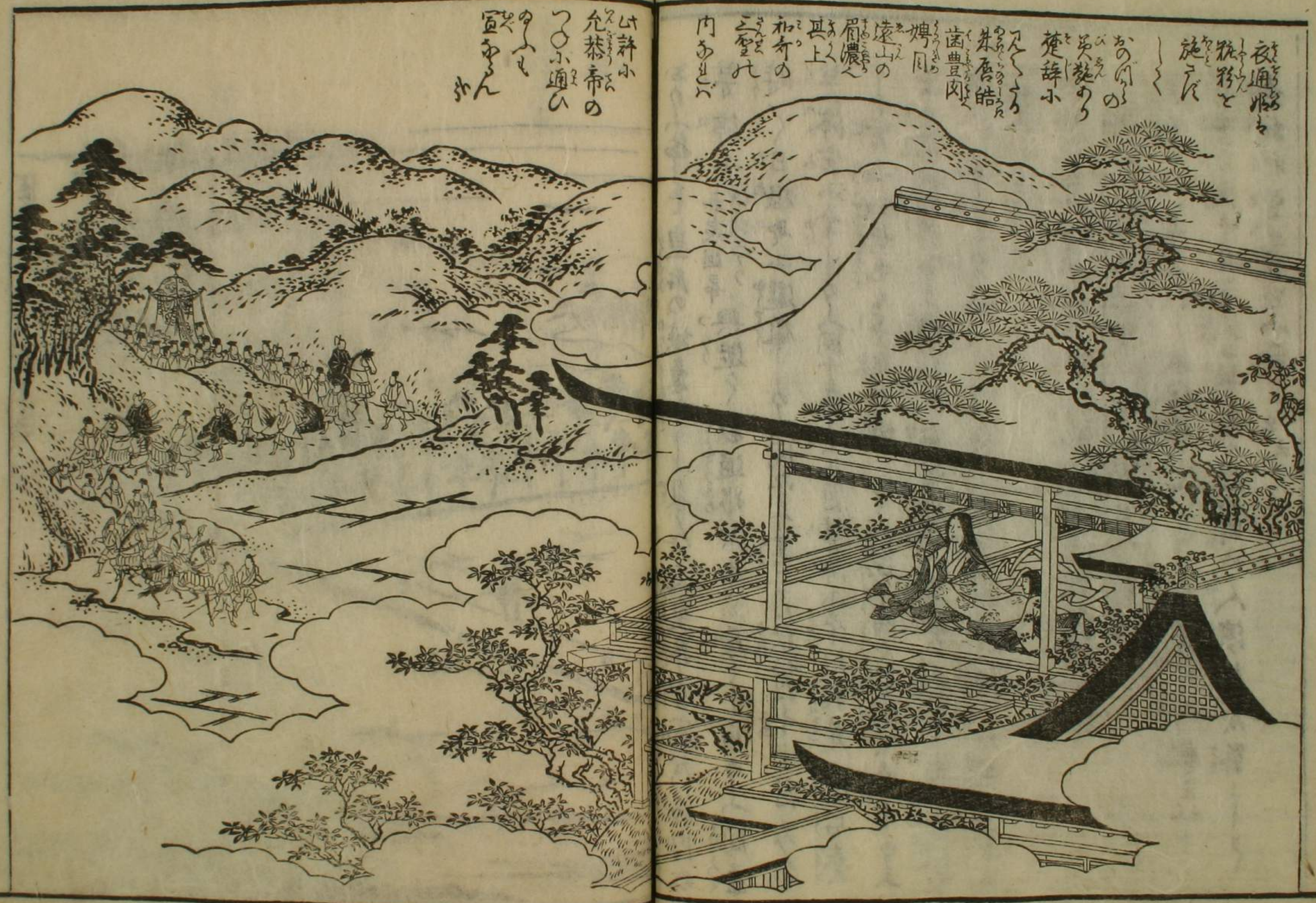
おのち孫を皇后の嫉意少く皇太子宮室ハ河内の
茅渚小和泉國尋興造く衣通形ハ小居り一ハ因茲
時く日根野小遊獵一ハ同九年春二月秋八月を十月み
茅渚宮小幸一ハ同十年春正月茅渚小幸ハ是皇后奏
一ハ言妻如毫毛も茅渚ハ嫉ハ陛下時々茅渚小幸一ハ
半是百姓の苦あり作を頼ハ車駕の殺を宣除のハ一ハ
其後ハ希有小幸ハ一ハ同十一年春二月茅渚宮に幸一ハ
衣通形歌曰

等虚辞陪通枳彌母ハ用柳毛異舍儼等利宇彌徒
波摩毛徒余留等枳等枳弘

天皇これと聞ゆハ衣通形に宣ハ中ハ是亦他人に聽とハ
ど皇后聞を爲ハ大不恨ハ人故小時の人濱藻ハ野一ハ
奈徒利曾毛といハ云

夜通船も
 花移と
 施さる
 かの
 英能の
 楚辞小
 犬
 井原皓
 齒豊内
 娉月
 遠山の
 眉濃
 其上
 和舟の
 三登此
 内あま

け許小
 允恭帝の
 つの通ひ
 宣中ん



信達
牛頭天皇



信達
御所村
長慶寺



信達所

武塔大神社

上郷上村小あり延喜神名帳云

馬戸王子

信達莊大苗代村の山あり王子記曰馬留王子又作幸記

海會宮

同莊大苗代の東にあり今紙屋と稱はは色にケ村乃

海會宮池の社あり其創人正北兵大に

金泉山長慶寺

信達庄新村あり真言宗也

元和七年孟夏十九日宿於泉州信達村舍主導余
海山觀音堂在阜之上村三四百步望則
雲霞在眼楠氏旗之閃爍大坂之百雉和剛山之
霧亦在莽蒼之中淡路浪高也疑長波不在嗚戸世
路嶮難不在葛城之唯見有觀音堂中老僧半閑雲半
閑而吾儕所謂清時有味是觀音者耶然今這僧誦
觀音品與夫杜五郎也而忘失淨名御輸一著矣阿呵
這僧乃縵禱巧人也而今被我輩題詠則子美詩中
黃四娘

信達崔嵬石逕斜海山風景畫難加
觀音堂裡所何有一箇野僧持法華

林道春

御所村

信達莊大苗代牧野の向ふあり市場もいふ白河院
後寺院幸記云建仁元年十月七日信達の禰戸御所
入の堂堂二向の屋創の由一成の時許百有て清若れ奉り
私寺二首公奉侍

山陰月
神の志もけうちをらふ名も終まきとをた夕月夜外
愚秋
希有

讀上り人々... 下宮長房定通通方信細家長清範等

○此記定家卿の神稿より愚歌より定家卿自宣り

信達王子 牧野村南にあり神を祀云八日天齋曉霧公挿入

愛宕社 信達中村にあり真言宗本堂也地蔵堂あり茶師堂二十

名産園田王餘魚 同莊園田浦より出英味園田へ賜依地北に

躑躅園 園村にあり園村中村の内北の方位平山あり經十四五町に

八雲御抄小躑躅園へ後奥園とあり

咲立く采のねやほくーや満 又茶 尚白

わくく女松生そふつーのふ

一乘山金熊寺 信達莊金熊寺村にあり 真言宗觀音院と号す

金熊權現社 阜の上あり觀音神金尊然也佛せ祭例系

疫神社 本社にあり或が延喜式畿内十處の疫神あり

佛殿 本社の下壇の地あり 役行者堂 本堂の茶師堂 本堂の在れ

地藏堂 茶師堂のつらあり 奉堂の 存財天社 本社の末社 山王 庚申

泉州信達莊金熊寺の本尊如意輪觀音 役行者靈爰に感

しく金銅六寸の尊像に土中へ浮り故不自四肘の本像に造

彼聖容に納り當寺小安に奉正安元年正月廿八日の火難に

免れり人咸奇くと後今造營及び修補を所を奉堂

茶師堂鐘樓中門金銅之尺鏡 面小觀者像 籙顯に 兩界の曼茶羅羅等

當山鎮守の神は行者金尊然也の兩神と勧請に故小金熊寺と

辨に應長二年二月廿八日敬白 省繁抹要文

男社大明神 同莊野里の東南にあり神を祀云延喜式小男神社二座今瀨

雄山 雄山の地名に日本後紀曰 雄武天皇雄山の道より遷り日根の行宮に

兵亂に亂る初陽の宿より紀泉の境に於ては乃々時陽陽此

躑躅岡



山家集

法師の
あつちを
あつちを

法師の
あつちを
あつちを

法師の
あつちを
あつちを

法師の
あつちを
あつちを

あつち



金熊寺



琵琶岸懸へ
紀泉西國の
界の南方
の嶮岨なり



男水門齋趾

武日男里の淡木の中ふ小祠あり
後世社公建く五瀬命公を奉るものなり
大神社といふものありみるは津津津
大神ありありとあり

日本紀曰

神武天皇五月丙寅朔癸酉日軍至茅渟山城水門

亦名山井水門時五瀬命矢瘡痛甚乃撫劍而雄詰

曰慨哉大丈夫被傷於虜手將不報而死耶時人因

號其處曰雄水門 舊事紀同上

古事記曰 神倭伊波禮毗古命與登美能那賀須泥毗古戰之

時五瀬命於御手負登美毗古之痛矢串故余詔吾

者為日神之御子向日而戰不良故負賤奴痛手自

今行廻而背負日以擊期而自南方迴幸之時到血

沼海洗其御手之血故謂血沼海也從其地迴幸到

紀國男之水門而詔負賤奴之手空死乎為男建而

崩故號其水門謂男水門也陵即在紀國之竈山也

日本紀舊事紀より雄水門古事記に依り紀國なるべし

懐中抄 ありぬ世のむらさきの人の公けさるるなり

鳥取川

鳥取川 鳥取川 鳥取川 鳥取川 鳥取川 鳥取川

菟砥河上宮齋趾

菟砥河上宮齋趾 菟砥河上宮齋趾 菟砥河上宮齋趾

宇度墓

宇度墓 宇度墓 宇度墓 宇度墓 宇度墓 宇度墓

自然居士禿倉

自然居士禿倉 自然居士禿倉 自然居士禿倉 自然居士禿倉

古雅跡勝の相公先人傳説居士の地蔵の公産の故に

其後禪宗に據りて禪寺大明國作の弟子とて

其後觀音城の東嶺に涼師あり九條村福田寺あり

其後國師宋國に入つて徑山の無準の法を授け

其後國師宋國に入つて徑山の無準の法を授け

其後國師宋國に入つて徑山の無準の法を授け

其後國師宋國に入つて徑山の無準の法を授け

其後國師宋國に入つて徑山の無準の法を授け

其後國師宋國に入つて徑山の無準の法を授け

無準の二宮... 正安二年... 仲冬... 源頼朝... 自熱居士... 則

平聖寺

中村の北ふあり... 今同慶あり... 山二川の向ふに... 建徳元年の證文に州

山内

山内村に中世内所あり... 觀心寺あり... 觀心寺あり

琵琶岸懸

中村の北ふあり... 觀心寺あり... 琵琶法師は各に... 故小名と云ふ

地蔵堂王子

王子記... 地蔵堂あり... 琵琶の音... 故小名と云ふ

馬目王子

王子記... 田地の家... 王子原と云ふ... 山内村にあり

八王子社

觀音堂... 山内村にあり... 紀州國... 山内村にあり

波太宮

石田村の南... 八幡宮... 鎮坐... 神功皇后

尾崎

波太神社... 延喜式内... 尾崎... 神官寺

西本願寺

御坊... 尾崎村... 西本願寺... 御坊

六字

六字の名... 尾崎村... 六字... 尾崎村

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎

尾崎

尾崎... 尾崎... 尾崎... 尾崎



淡路結



尾寄
西本願寺御坊

和泉石其性細密
みく物と造ゆ
自在なる取莊
箱化小石匠多し



若性寺

此寺村小あり津土宗新師... 舊跡あり村小あり...

韓財大社

舊跡あり村小あり... 韓財大社の...

貝掛松

貝掛村にあり土人曰む... 貝掛松の...

箱他

箱他村の南小あり... 箱他村の...

菖集

此の浦小あり... 菖集の...

圓性家地

圓性家地の... 圓性家地の...

名産和泉石

名産和泉石... 名産和泉石の...

淡輪

淡輪の... 淡輪の...

小弓宿禰墓

小弓宿禰墓... 小弓宿禰墓の...

上道大海墓

上道大海墓... 上道大海墓の...

雄略天皇九年三月

雄略天皇九年三月... 雄略天皇九年三月...

無往也

無往也... 無往也の...

宿禰大伴

宿禰大伴... 宿禰大伴の...

葉禰臣

葉禰臣... 葉禰臣の...

朝聘無違

朝聘無違... 朝聘無違の...

貢職允濟

貢職允濟... 貢職允濟の...

逮乎朕之王

逮乎朕之王... 逮乎朕之王の...

對馬之外竄跡，匹羅之表阻高麗之貢，吞百濟之域，況復朝聘既闕，貢職莫脩，狼子野心，飽飛飢附，以汝四卿，拜爲大將，宣以王師，薄伐天罰，龔行於是，紀小弓宿禰使大伴室屋大連憂陣於天皇，曰：臣雖拙弱，敬奉勅矣，但今臣婦命過之際，莫能視養，臣者公冀將此，事具陣，天皇於是，大伴室屋大連具爲陣之，天皇聞悲，頽歎以吉備，上道采女大海賜於紀小弓宿禰，爲隨身視養，遂推轂以遣焉，紀小弓宿禰等即入新羅，行屠傍郡，新羅王夜聞官軍，四面鼓聲，知盡得，隸地與數百騎，馬軍亂走，是以大敗，小弓宿禰追斬敵將陣中，隸地悉定，遺衆不下，紀小弓宿禰亦收兵，與大伴談連等會兵，復大振，與遺衆戰，是夕大伴談連及紀，岡崎來目連，皆力鬪而死，談連從人同姓津麻呂，後入軍中，尋覓其主，從軍不見，出問曰：吾主大伴公何處在也？人告曰：汝主等果爲敵手，所殺，指示屍處，津麻呂聞之，踏叱曰：主旣陷，何用獨全？因復赴敵，同時殞命，有頃遺衆自退，官軍亦隨而卻，大將軍紀小弓宿禰值病而薨矣，於是采女大海從小弓宿禰喪到來，日本遂憂詔於大伴室屋大連，曰：妾不知葬所，願占良地，大連即爲奏之，天皇勅大連曰：大將軍紀小弓宿禰龍驤虎視，旁眺八維，掩討逆節，折衝四海，然則身勞萬里，命墜三韓，宜致哀矜，宛視喪者，又汝大伴卿與紀卿等同國近鄰之人，由來尚矣，於是大連奉勅使土師連小鳥作冢墓，田身輪邑而葬之。

紀船守墓
淡輪村の西あり墓畔小冢ニツあり船守ハ雄人の子ニ叙一同八年惠美押勝船運に船守初受くこれ公勳勳功小弓の從五位下勳五等不授く屢歷數官延暦四年

十一月中納言に遊衛大將に於て十年正月大納言に
十一年四月二日薨に年六十二 希世哀悼し朝衣視に諡に
正二位右大臣 淡路守

黒崎 淡路守

土佐日記云

二月朔日ありてのまゝうらうまれせしむらふ
やまゆれいつとれりといふ所より物ごとくあり海乃うら
まのうらとくに風波みまらるる松東なるゆきやまら
れ名をうらうら 松れをいひての波を岩のうらうら
色にすうらうら又色に今一うらあんそらぬ

深日行宮

續日本紀云大平神護元年九月庚戌使成遣しり行宮に
大和河内和泉等の國に造りて紀伊國に幸しりんとの用意に
同十月甲申和泉國田根郡深日行宮に到りてのうらうら乃方
暗暝しりて常の風雨に異なり紀伊國守小北朝臣小費これ
よりしりて還侍詔しりて二十足纏二百屯成賜しり

吹飯城趾

平家物語云長承三年の彼國安摩六帝忠系紀伊國
國守に清忠系志と同一しりて和泉國吹飯に城
門を築き籠居りて安摩國守能登守紀伊國
吹飯兵に吹飯に城
教経兵の難百二十人保しり

深日浦

淡路守の浦に南心を里許ありて深日浦に色
濃に芦辺より田鶴の聲波向ふより鳴つれり満ちふゆれ

江水洋洋として西の方より淡路の翠巒高く聳へ水々
摩耶六甲山武庫一の谷に嶺烈し南に紀伊海加田乃
淺葉岩の神祠近く其西より二子嶋河波乃鳴門の海
わくわくして空に滄浪にたれ多浪舟をうらうらとく満ち
真砂津ありて洗ひかぬく横貝長風にうち上りて残月
端より白く林の竹より蓼の花赤く巨巖をかくしこれ
さち多物とくそ名な藻を葺る海士乙女に向へを冠石
鳥帽子岩入道岩をうらうら教ゆきもくし浦をむらうら
和奇の名をうらうらして古人の秀味多く代々の集りも久へ
うらうら國の南ありと名高き揚地ありて風流のまただるる
うらうら深日浦なる屈を吊るるの顔もひはれたるの光

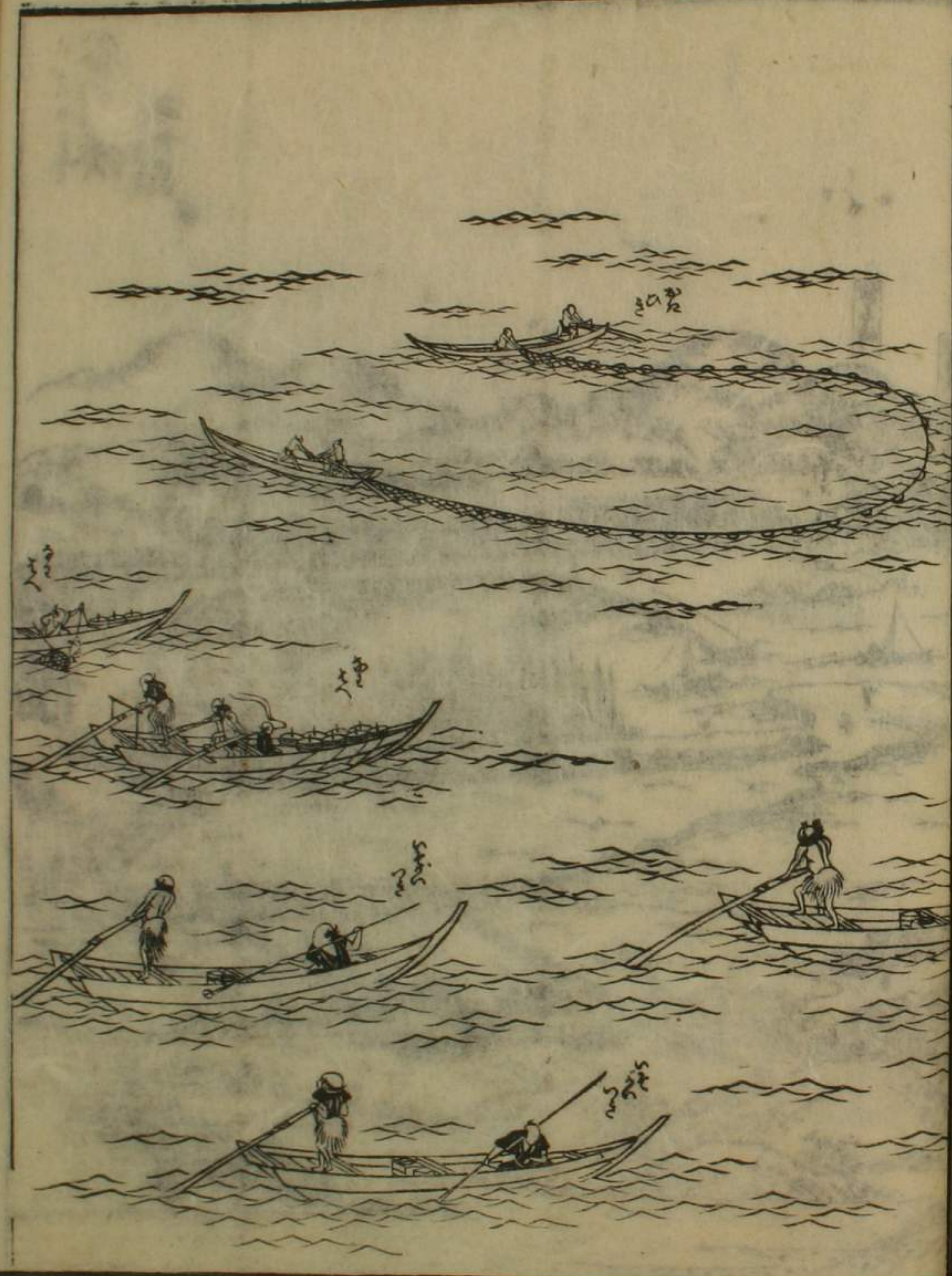


吹飯浦

洞庭西望楚江分
 水盡南天不見雲
 日落長沙秋色遠
 不知何處弔湘君

李白

洞庭西望楚江分
 水盡南天不見雲
 日落長沙秋色遠
 不知何處弔湘君



源の日の浦の漢船



新吉
 名上とあれ
 といは風
 ぬけかの
 浦小
 かの川の
 舟中り
 長井に
 くるふた
 茶屋



とがのまを
谷川湊
雄女家
有

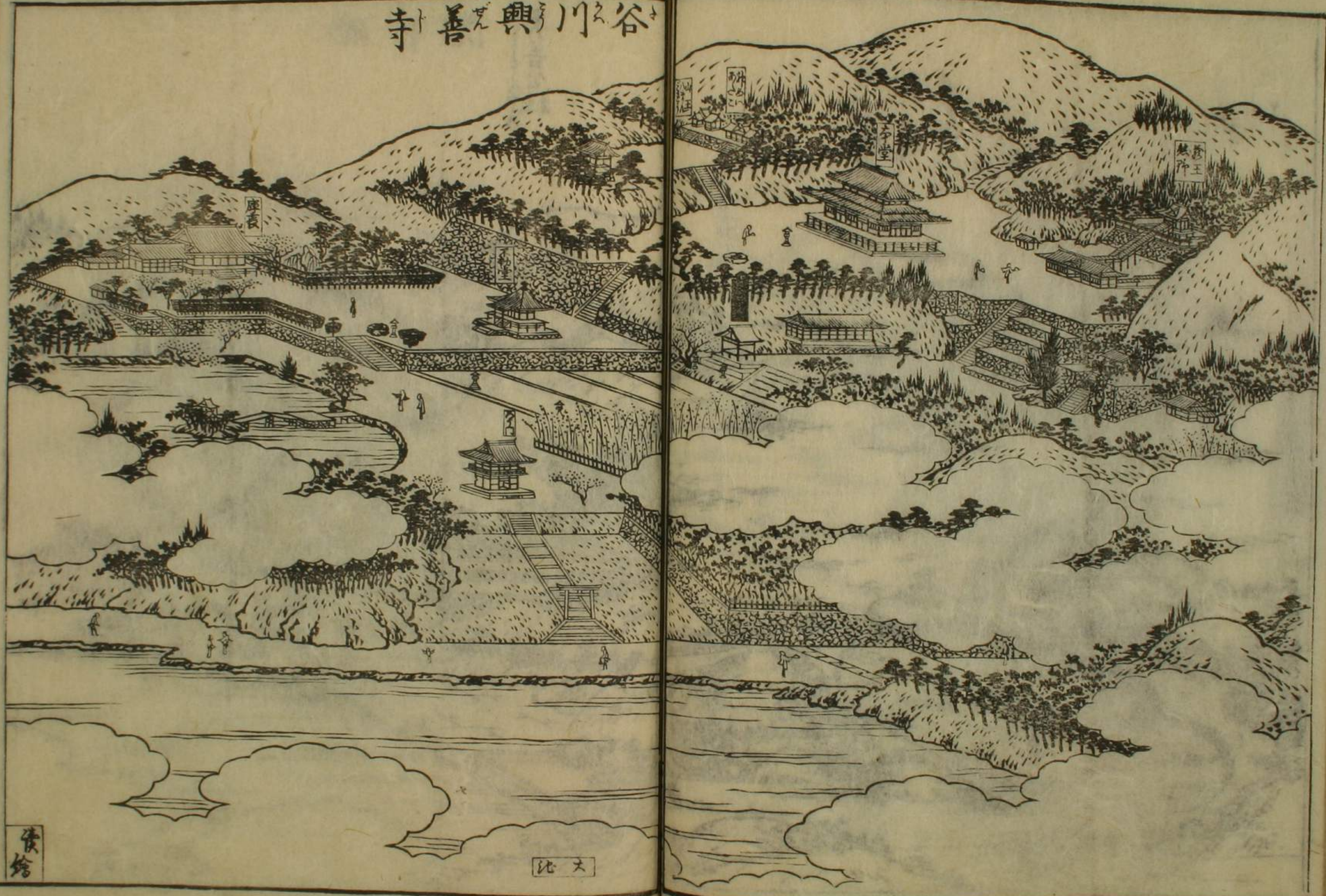
雄女家

雄女家

雄女家

雄女家

谷川興善寺



續繪

此大

理智院
秀吉公社



戸崎波石

浚路橋



こゝの十とよのやしろ
小島住吉祠

萬葉集
時風吹飯乃濱雨出君乍贖命者妹之爲社

藤原家基

侍のこころもゆけひの浦風にのりぬ波の音のききとる

三河内侍

月やけのゆけひの浦のさよゆれたるあふもほほをかくれたり

赤後法勝

月清くふもゆけひの浦風にのりぬ波の音のききとる

後成

沖は風ゆけひの浦にさけりさるるこころも母にふたりゆき

後頼

沖は風ゆけひの浦ふら波のよるこころも久に秋のよれ月

小侍従

大この名をきけひの浦あふりゆきとふてとる秋のよれ月

後人守臣

若くもさきわとこひて年ふりぬりさるるこころも母にふたりゆき

院御製

風さむらゆけひの浦のさよふもをきたは干の方にゆきり

鳥氏

立波のききのこころておはは風ゆけひの浦にこほり月け

祝部成光

わいさるゆきとるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

頼徳院

いふせん然とゆけひのうらみてもふかかり小橋のさるるこころも

雅世

愚問
拾玉
こは波ふらゆけひのうらみてもふかかり小橋のさるるこころも

定家

秋も人らゆけひのうらみてもふかかり小橋のさるるこころも

長鎮

かうたよのさるるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

日

おちゆきとるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

伊勢

いさよとるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

伊勢

いさよとるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

伊勢

いさよとるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

伊勢

いさよとるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

伊勢

いさよとるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

伊勢

いさよとるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

伊勢

いさよとるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

伊勢

いさよとるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

伊勢

いさよとるこころも母にふたりゆきとふてとる秋のよれ月

伊勢

土佐日記云

の時よりふぬ志満とりの所をたたくまるとり

観音崎 谷川の傍の右小の村堂に観音の安坐並に尾崎より和泉

宝珠山光明寺理智院 谷川村にあり真言宗平井中

本尊不動明王 御法大師の作秀吉公御親征の時海路安座の

秀吉公像 本堂の御社内に安坐 御親征の時海路安座の

流本親世者 追討の海路安座の

鎮守 瀨田の海路安座の

不初堂 不初堂の御社内に安坐 御親征の時海路安座の

佛殿 御社内に安坐 御親征の時海路安座の

鳳樹山金剛院興善寺 谷川村にあり天台宗初ハ文徳帝の本願

不初堂 不初堂の御社内に安坐 御親征の時海路安座の

石燈燵 九月廿八日造 施主 瀨田宗實とありこれ則大納言

樓門 四天王の御社内に安坐 御親征の時海路安座の

二宿観音 御社内に安坐 御親征の時海路安座の

海士郎 郡の海士郎の御社内に安坐 御親征の時海路安座の

二十八段 表に依り徳の御社内に安坐 御親征の時海路安座の

院 御社内に安坐 御親征の時海路安座の

小徳住吉社 御社内に安坐 御親征の時海路安座の

御社内に安坐 御親征の時海路安座の

御社内に安坐 御親征の時海路安座の

御社内に安坐 御親征の時海路安座の

御社内に安坐 御親征の時海路安座の

あり二十五町詳ん多く海濱と傳へくは道に
 又小治谷の内三の谷とて新に於ては揚子水とてあり
 あるは西廻とて新の式に於ては揚子水とてあり
 一やとこれとて載せしむるは石の壺とてあり
 流州大川村に於ては六町詳ん加田の壺とてあり
 七津馬とては時ありは道に於ては明神とてあり
 五郎とては橋ありは小治村とては石の壺とてあり
 十一里十六町五十

和泉名所圖會四之卷 大尾

和泉名所圖會跋



吾國の智をたうらんを以ては
 七曲予の加備りも玉をばらんを以ては
 餘あり系を以ては加備りも玉をばらんを以ては
 吾國の智をたうらんを以ては
 教を以ては神の在る國は和泉とて人代乃りて
 白眉の海を以ては瀬余長蛇を以ては痛矣申は負の血
 海の外北の方塘の浦は櫻嶺とて詠んを以ては
 聖の帝とて舍人親王は尊也とて婦 大鷲鶴は陵あり

喜ふや高河の度此あはるも好ふまに
うらゝる瀬のた端にあはる計とあ係さき
信を此杜のうらゝる葉のちりちり
とあはるふ月とけはる國府のうらゝる

氣長足姫尊のりまはるうらゝる水の名を
久米田の池にうらゝるあはるも好ふ
またうらゝる黒寄のねはるあはる
貝の色をせはるあはる五色に今一色
もあはる瀬はる衣通姫の位のみ
あはるあはるあはるあはるあはる

波風もあはるあはる鏡と眺見
子多のあはるあはる紀のあはるあはる
見のうらゝるあはるあはるあはるあはる
捨書あはるあはるあはるあはるあはる
もあはるあはるあはるあはるあはる
會もあはるあはるあはるあはるあはる
浪速國のあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはる

尺木の瘡ありて是れ醫者馬ありて母うりありき
言懐夕々いふ名をいひて空しく是れ其の死す
玩好を諫る人といふ親友ありて

寛政七癸乙卯霜降月

平安 籬島 穂里 湘夕



畫工 浪花 春朝齋竹原信繁



和泉國大繪圖

此圖を國中に郡分して郷名村名ありて
山川海濱或は神社佛閣名所古跡古歌等
悉く之を一一國中一面に見渡すと折々あり

日本
輿地
通志 和泉志 全部
五卷

泉州志 全部
四冊

寛政八年 丙辰 春新刻

皇都書林 小川 多丸衛門

森本 太助

松村 九兵衛

柳原 喜兵衛

高橋 平助

浪華書林

